

令和3年度三重県周産期医療ネットワークシステム運営研究事業報告

三重県の周産期医療を維持・改善する目的で本事業を平成20年度より行っており、県よりご支援頂き感謝申し上げますとともに令和3年度の事業報告を以下に示します。

1. 三重県生涯教育特別研修セミナーの実施

第84回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和3年5月20日（木）19：00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟12階三医会ホール+ZOOMによるWEB配信

【特別講演】高橋 宏典 先生（自治医科大学産科婦人科 教授）

「retained products of conception(RPOC)の管理方法について」

参加人数：70名

第85回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和3年5月21日（金）19：00～

場所：Zoomを用いたWeb配信

【特別講演】

杉山 隆 先生（愛媛大学大学院医学系研究科産科婦人科学 教授）

「妊娠糖尿病 Up date」

参加人数：107名

第86回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和3年5月27日（木）18：00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟5階大ホール+ZOOMによるWEB配信

【特別講演】伊藤 正明 先生（三重大学 学長）

「つながる地、ひらく未来、地域共創大学へ」

参加人数：30人

第87回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和3年6月17日（木）19：00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟12階三医会ホール+ZOOMによるWEB配信

【特別講演】近藤 英治先生（熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座教授）

「弛緩出血の対処法を再考する」

参加人数：77人

第88回三重県生涯教育特別研修セミナー ※コロナ感染防止の為、中止

日時：令和3年7月2日（金）19:00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟12階三医会ホール+ZOOMによるWEB配信

【特別講演】原田 省先生（鳥取大学医学部附属病院 病院長）

「地域と共につくるトップブランド病院」

第89回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和3年7月29日（木）19：00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟12階三医会ホール+ZOOMによるWEB配信

【特別講演】上田 豊先生（大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室 講師）

「HPV ワクチンの再普及をマーケティング理論から考える」

参加人数：55 人

第 90 回三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：令和 3 年 8 月 17 日（火）19：00～

場所：ホテルグリーンパーク津「伊勢」

【特別講演】石井 桂介 先生（大阪母子医療センター 産科 主任部長）

「双胎妊娠の周産期管理＜2021 年版＞」

参加人数：75 人

第 91 回三重県生涯教育特別研修セミナー17

日時：令和 3 年 10 月 28 日（木）19：00～

場所：三重大学医学部附属病院病棟 12 階三医会ホール+ZOOM による WEB 配信

【特別講演】田 中 守 先生（慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 教授）

「自己羊水由来間葉系幹細胞を用いた周産期疾患治療の試み」

参加人数：52 人

セミナーは、若手医師のみならず、病院・診療所のベテラン医師の知識の向上に寄与した。

2. オープンシステムの継続

引き続きオープンシステムを継続しており、三重大学において、現在 19 施設 23 名の産科医が登録している。

産科オープンシステム利用による診療手当(2021 年 4 月～2022 年 3 月) は以下のとおりである。

三重大学 3,214,150 円

また、県内で三重大学以外にオープンシステムが稼働している施設は、三重中央医療センターである。同施設における産科オープンシステム利用による診療手当(2021 年 1 月～12 月) は以下のとおりである。

三重中央医療センター 1,893,900 円

産科オープンシステム登録施設に患者様用のパンフレット・冊子を配布し、改めて産科オープンシステムのメリットと利用を呼び掛けている。

3. 三重県下共通救急母体搬送紹介用紙の作成および実施

本共通紹介用紙を用いる目的は以下のとおりである。県下の母体搬送症例の情報を収集し、どのような疾患が多いか、地区により疾患の種類に相違があるのか、搬送先を探し始めてから搬送先が決定するまでどのくらい時間がかかるか、などを検討することにより、今後の三重県下の周産期医療ネットワークシステムの改善に役立てようとするものである。

具体的には、本事業により母体救命の症例、早産の症例などの搬送の流れを把握することにより、現在の県下の 5 つの基幹センター（三重中央医療センター、三重大学、市立四日市病院、県立総合医療センター、伊勢赤十字病院）による県下各地区ゾーンディフェンス体制の変更が必要か否かを検討することができる。また疾患の種類により搬送元施設に偏りがある際には、医療者側の標準医療の確認、教育というステップを踏む必要がある。そのためにも上記 1 で述べたような研修会や症例検討会などを併せて行うことが三重県全体の周産期医療のレベルアップに寄与することができると考えられる。

以上の情報をデータベースとして保存するためにコンピューターを事務局である大

学に設置した。本紹介用紙は、平成 20 年 11 月に県下の妊婦を扱う全施設に送付し、本紹介用紙を用いた搬送が行われている。現在母体搬送データベースの作成を継続しており、県下の母体搬送の向上のための対策を講じる予定である。

また、県下の母体搬送先をスムーズに決定するために、周産期母子医療センターと産婦人科医会及び消防機関等と調整を行った。現在、搬送依頼を受けた基幹病院が中心となって搬送先を決定し、搬送元および救急隊に迅速に連絡をとるようにしている。これにより、各産科医療機関からの搬送先についての相談などに対し、以前より短時間で決定することが可能となった。

2021 年の母体搬送は 229 例（三重大学に届いている紹介用紙の枚数であり、実数はもう少し多いと想定される）あり、搬送症例は約 50 %が切迫早産や前期破水症例で約 7%が母体救命の搬送であった。搬送先決定までの所要時間は平均すると約 10 分であるが、ほとんどが 5 分以内で決定されていた。最初に搬送依頼を受けた病院が受け入れ不可能な場合に、搬送元の施設が搬送先を探している場合があり、搬送先を決定するまでに時間を要す場合がある。最初に搬送依頼を受けた基幹病院の医師が責任を持って受け入れ先を決定するよう、周知を図っている。

4. 三重県周産期症例検討会の開催

2012 年から 4 ヶ月に 1 度、三重県における周産期センターを有する基幹病院（三重大学医学部附属病院、三重中央医療センター、市立四日市病院、県立総合医療センター、伊勢赤十字病院の 5 施設でスタート、現在は桑名市総合医療センターを含めた 6 施設）において、実際の診療にあたっている産科側と新生児側の医師が集まり、妊娠 22 週以降の死産と新生児死亡（生後 28 日以内の死亡）、神経予後不良（見込み）例を、死因、病態、治療との関係、再発防止策等の検討を行っている。また、検討会には、三重県医師会会長、行政代表として三重県医療保健部医療政策総括監と三重県医療保健部医療政策課にも参加していただいている。2012 年 1 月～2020 年 12 月の 9 年間で、妊娠 22 週以降の死産：150 例、新生児死亡：99 例、神経予後不良例：243 例であった。2016 年は妊娠 22 週以降の死産：27 例、新生児死亡：12 例で、三重県の周産期死亡率は 5.6 と全国で最も悪かった。2019 年には妊娠 22 週以降の死産：12 例、新生児死亡：3 例で、周産期死亡率は 2.0 と全国で最も低くなった。検討会の開催が、三重県内の産婦人科同士の連携を強化し、行政との連携も密となった成果と考える。なお、2020 年は妊娠 22 週以降の死産：14 例、新生児死亡：13 例で、周産期死亡率は 2.9 であった。ひきつづき、検討会の開催を重ね、妊産婦が安心・安全に出産できる体制を維持していく。

5. 三重県内の妊婦のサイトメガロウイルス抗体スクリーニングについて

平成 25(2013)年から県内の産婦人科施設で妊婦のサイトメガロウイルス（CMV）抗体スクリーニングを開始し、現在 30 施設で実施している。令和 3(2021)年までに妊婦 4 万 4 千人にスクリーニングを行い、その中から 45 例の先天性 CMV 感染児を同定した。45 例のうち、新生児抗ウイルス剤治療の対象となった重症 CMV 感染児は 4 例であり、2 例は脳画像異常とともに聴覚異常を認め、1 例は脳画像異常のみを、もう 1 例は聴覚異常のみを認める症例であった。令和 2(2020)年～令和 3(2021)年にかけて妊婦の CMV 初感染が減少しており、国内での COVID-19 の本格的な流行との関連が疑われる。今後も妊婦 CMV 抗体スクリーニングを継続しさらなる妊婦 CMV 抗体データを収集するとともに、国内での COVID-19 流行との関連について解析を行っていく予定である。

6. TV 会議システムについて

2013 年から三重大学と県内の基幹病院等にインターネットを用いたリアルタイムテレビ会議システムを導入し、TV カンファレンスを 1~2 回/週、講演会：5~6 回/年開催している。(現在 TV 会議システムを導入している施設は桑名市総合医療センター、県立総合医療センター、市立四日市病院、三重大学、三重中央医療センター、済生会松阪総合病院、伊勢赤十字病院、榊原記念病院、ヨナハ丘の上病院である。) 県下の若手医師が研修する全ての病院で、このシステムを介して若手医師・復職後の女性医師の教育が可能となり、またカンファレンスを介して県下の治療方針の統一化が可能となった。これまでは一度に TV カンファレンスに参加できる施設は大学を含め 4 施設であったが、2016 年からは全ての施設が一度に参加する事が可能となり、より一層教育効果が上がっていると考えられる。2021 年からは、これまで三重大学内で開催していた研究に関するカンファレンス (1 回/週) についても、TV 会議システムに接続して開催している。大学で行っている周産期を含めた研究についても、大学以外の施設と共有することが可能となった。